

全国市民アクションは6月7日

1350万筆(第1次分)を国会へ提出しました

「広陵9条の会」は5月末に1000筆達成、広陵町全体(広陵町民の会)では3000筆突破

3000万人請願署名

安倍首相がめざす9条改憲(憲法9条に自衛隊を明記する)に不安や危機感を持った多くの皆さんのご協力により「安倍9条改憲NO!」の署名が短期間に大きくひろがりました。ご協力本当にありがとうございました。

署名の力が改憲スケジュールを後退させている

この署名の力が、森友・加計学園疑惑にからむ島的情勢も一触即発の戦

公文書改ざんとうそいうそを重ねる虚偽答弁、自衛隊の日報隠しなどに対する国民の厳しい批判と相まって安倍政権を窮地に追い込んでいます。

安倍首相がもくろんだ今通常国会への改憲原案の提出と発議と言うスケジュールは大きな後退を余儀なくされています。

また、6月12日の米朝首脳会談によって、朝鮮半島の情勢も一触即発の戦

争の危機から、対話による平和の方向へ劇的に変化してきます。

とりくみを継続し 安倍政権を退陣させよう

しかし、安倍首相や自民党は9条改憲の強行をあきらめておらず、秋の臨時国会での改憲原案の提出を狙っており、少しの油断もできない状況にあります。安倍首相に9条改憲を断念させるため

には「安倍9条改憲NO!」の国民の声を更大きく集結し、安倍政権を退陣に追い込む必用があります。

そのため3000万人署名は3000万筆達成にむけ取り組みを継続しています。引き続き一層のご協力をよろしくお願いたします。

「九条の会」は、6月1日、「3000万人署名を達成し、安倍9条改憲に終止符を」の声明を発表し、署名運動の継続と3000万筆の目標達成を呼びかけました。

安倍9条改憲NO!

4月10日、136人の憲法研究者が「自民党改憲案に反対する憲法研究者声明」を発表しました。

声明は、「憲法は、政治家をはじめとする公務員に対し国家権力を真に国民のために使うよう義務を課している。森友学園問題では、まさに、国家権力が権力者のために使われたのではないかと疑われているのである。その全貌の解明なくして進められる憲法改正は、まさに権力者のための憲法改正にならざるを得ないで

あろう」と述べ、問題点を詳しく指摘しています。

(インターネットで「自民党改憲案に反対する憲法研究者声明」を入力すれば簡単に検索できます)



平和を未来へ伝えたい

「第14回まほろば平和音楽祭」にぜひご参加ください

今年のゲストは、葉衛陽・さくら親子による「中国琵琶の競演」
広陵町からは、女声コーラスはなみずき、優悠会(尺八、箏)が出演します

日時：9月1日(土) 開演13:30(開場13:00)

会場：河合町立文化会館(まほろば大ホール)

(参加協力券 500円) 0745-72-1100

主催 第14回まほろば平和音楽祭実行委員会

(詳しい企画内容、出演団体等は案内チラシをご覧ください)



「奈良広陵九条の会」発足アピール
いにしえから開けた、古代のロマンが眠る町 広陵から世界平和の力・憲法九条をかがやかせよう

20万人を超えるひとが亡くなった沖縄戦から七三年。沖繩は六月二三日、恒久平和を祈る「慰霊の日」を迎えました。戦没者追悼式で中学3年生の相良倫子さんが創作した「平和の詩」を朗読し深い感動を与えました。全文は次の通りです。

「生きる」

浦添市立港川中学校3年

相良 倫子

私は、生きています。
マントルの熱を伝える大地を踏みしめ、心地よい湿気を孕んだ風を全身に受け、草の匂いを鼻孔に感じ、遠くから聞こえてくる潮騒に耳を傾けて。

私は今、生きています。

私の生きるこの島は、何と美しい島だろう。

青く輝く海、岩に打ち寄せしぶきを上げて光る波、山羊の嘶き、小川のせせらぎ、畑に続く小道、萌え出づる山の緑、優しい三線の響き、照りつける太陽の光。

私はなんと美しい島に、生まれ育ったのだろう。

ありったけの私の感受器で、感受性で、島を感じる。
心がじわりと熱くなる。

私はこの瞬間を、生きています。

この瞬間の素晴らしさがこの瞬間の愛おしさが今と言う安らぎとなり私の中に広がりゆく。

たまらなく込み上げるこの気持ちをどう表現しよう。

大切な今よかけがえのない今よ私の生きる、この今よ。

七十三年前、私の愛する島が、死の島と化したあの日。

小鳥のさえずりは、恐怖の悲鳴と変わった。
優しく響く三線は、爆撃の轟に消えた。

青く広がる大空は、鉄の雨に見えなくなつた。

草の匂いは死臭で濁り、光り輝いていた海の水面は、戦艦で埋め尽くされた。

火炎放射器から吹き出す炎、幼子の泣き声、燃えつくされた民家、火葉の匂い。

着弾に揺れる大地。血に染まった海。魑魅魍魎の如く、姿を変えた人々。阿鼻叫喚の壮絶な戦の記憶。

みんな、生きていたのだ。

私と何も変わらない、懸命に生きる命だったのだ。

彼らの人生を、それぞれの未来を。

疑うことなく、思い描いていたんだ。

家族がいて、仲間がいて、恋人がいた。仕事があった。

生きがいがあった。

日々の小さな幸せを喜んだ。

手を取り合って生きてきた、私と同じ、人間だった。

それなのに。

壊されて、奪われた。

生きた時代が違う。

ただ、それだけで。

無辜の命を。

あたり前に生きていた、あの日々を。

摩文仁の丘。

眼下に広がる穏やかな海。

悲しくて、忘れることのできない、

この島の全て。

私は手を強く握り、誓う。

奪われた命に想いを馳せて、心から、

誓う。

私が生きています限り、こんなにもたくさん

さんの命を犠牲にした戦争を、絶対に許さないことを。

もう二度と過去を未来にしないこと。

全ての人間が、国境を越え、人種を越え、宗教を越え、あらゆる利害を越えて、平和である世界を目指すこと。

生きる事、命を大切にできることを、

誰からも侵されない世界を創ること。

平和を創造する努力を、厭わないことを。

あなたも、感じるだろう。

この島の美しさを。

あなたも、知っているだろう。

この島の悲しみを。

そして、あなたも、私と同じこの瞬間（とき）と一緒に生きているのだ。今と一緒に、生きているのだ。

だから、きつとわかるはずなんだ。

戦争の無意味さを。

本当の平和を。

頭じゃなくて、その心で。

戦力という愚かな力を持つことで、得られる平和など、本当は無いことを。

平和とは、あたり前に生きること。

その命を精一杯輝かせて生きることだということ。

私は、今を生きています。

みんなと一緒に。

そして、これからも生きていく。

一日一日を大切に。

平和を想って。平和を祈って。

なぜなら、未来は、この瞬間の延長線上にあるからだ。

つまり、未来は、今なんだ。

大好きな、私の島。

誇り高き、みんなの島。

そして、この島に生きる、すべての命。

私と共に今を生きる、私の友。私の

家族。

これからも、共に生きてゆこう。

この青に囲まれた美しい故郷から。

真の平和を発進しよう。

一人一人が立ち上がって、みんな

未来を歩んでいこう。

摩文仁の丘の風に吹かれ、私の命が

鳴っている。

過去と現在、未来の共鳴。

鎮魂歌よ届け。悲しみの過去に。

命よ響け。生きゆく未来に。

私は今を、生きていく。